

県民保協たより

発行所 一般社団法人岡山県民間保育所協議会調査広報委員会 印刷所 二華園印刷 ☎ 086-526-6633



写真提供：倉敷市観光課

「風情ある港町 下津井地区の『干しダコ』」(倉敷市児島)

翔



先日、小学五年と中学二年を対象に行った令和三年度全国体力テストの結果について報道がされていました。それによると、体力合計点は近年低下傾向であるが、コロナ禍による一斉休校や緊急事態宣言の発令、外出自粛などで子どもたちが体を動かす機会を失ったことがさらに体力低下に拍車をかけているとのこと

です。
新型コロナウイルス感染症発生以来、新しい生活様式が求められてきました。子どもの成長との両立で考えると難しい部分もあると思います。特に集団で行うスポーツなどは自粛もされたでしょうし、体を動かす習慣から離れることも多かつたろうし、体を動かすことが楽しいという経験自体減ったんだろうと思います。

園庭を見ると、冬の寒さにも負けずにとっても楽しそうに外遊びをしている子どもたち。感染症対策を行いながらも、子どもから大人、老齢期へと続く人生の中で、健やかに健康で生きてゆくために、子どもの頃から身体を動かすことが楽しいことだと感じることができるよう、園の環境を整えていくことが大事だと改めて思う今日この頃です。

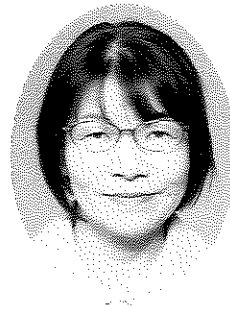
清水 明

保育探訪 Part 9

～だからこそできること～

倉敷市立短期大学
保育学科

教授 木戸 啓子



新型コロナウイルス感染症は、日常の暮らしに大きな影響が出ました。保育者となる学生を育てている養成校でも、保育所等での実習の機会をどうとらえていくか、いろいろな対応を検討しました。

保育は、人が人を育てる仕事で、子どもが、いろいろな人やモノと出会いながら、自分の関係性を広げていくことを助けたいものです。人と人が出会うということは、相手の息づかいや眼差し、においまで含めて感じ取りながら、場を共有することだと思えます。すてきな風が入ってきたなあ、空が明るくなってきたなあ、ということも含めて、お互いを感じることを大切にして、関係

をつくっていきます。ただ今は、感染症から命を守ることがなによりも大切であり、保育者養成の優先順位を変えざるをえない状況となりました。昨年度からは、本学でも学外で予定していた実習のいくつかについては、実習施設での実習をとりやめ、学内での実習としました。

本来、実習は、子どもたちの姿に触れながら、将来なりたい保育者のイメージを高めていく絶好の体験です。そのような貴重な実習体験をオンラインでどのようにつかむことができるのか、担当教員での議論が続きまし

た。まず、このような状況下で、保育所等の子どもたち、保護者の皆様、先生方の命を守ることを第一に、また、自分たちの命も守ることが保育者の責務であると考えました。そして、どのような状況であっても、学びを止めないこと、そして、様々な状況下でも学ぶ力をつけていくことを目指すことにしました。当事者である学生にも、できないことを悲観

するのではなく、「今、この状況だからこそできること」をしよう、と伝えました。オンラインでの実習を、通常の実習では学びきれないことができる機会ととらえ、いくつかの保育事例をじっくりと読み込み、学生同士で課題や対応を検討しあう時間を試みました。一人一人、モニター越しではありますが、自分で考えた遊びを披露し、お互いに評価をしあうようなこともしました。

学内での学びの後、実習予定だった園の先生方へお出しした学生の手紙の一部をご紹介します。「この度の保育実習では、事前訪問のみとなり

ましたが、いただいた資料を基に学内演習での学びを深めることができました。保育所等の一日の流れを動画で視聴し、書き起こしました。何度も見直す中で、自分がまじめな記録をグループ内で見せ合い、意見交換をし、自分とは違った視点で書いた記録を見たり、自分では気づくことができなかった環境構成や保育者の配慮などにも気づいたりすることができま

した。「実習のまとめとして、ドキュメンテーションの作成も学びました。将来、子どもたちと関わる際に、子どもたちの表情や言葉、動きをしつかりと受け止め、子どもに即した関わりができるようにしたいと思います。」

学生たちは、実習ができない不安を感じながらも、学内での実習だからこそできることを学び取ったようです。養成校の教員としては、オンラインでの学びを体験したからこそ、一緒に場を共有して、お互いにやりとりをして関係をつくっていくことの大切さも痛感しています。

春には、どのような状況下でも、「だからこそできること」に前向きに取り組む新卒者が子どもたちの前に立たせていただきます。春に出会う若い保育者をどうぞよろしくお願いたします。保護者の皆様にも、子どもたちの成長とともに、保育者としての成長を助けていただければ幸いです。

幹部研修会報告

令和二年度の研修会は新型コロナウイルス感染症が流行したため、十二月の幹部研修会と三月の新任職員研修会のいずれも中止となった。会員施設が企画運営する保護者研修会も応募がなかった。

ナー部は、研修番組のオンライン配信サービスを提供しており、内容を検討した結果、幹部研修会については「保育者のための感染症対策講座（基礎編）」と「同（実践編）」（各四十分）の二つのプログラムを十一月十七日（水）十三時三十分～十九日（金）十五時に配信することに決定した。

動画は指定されたURLにインターネットを通じてアクセスし、パスワードを入力することで、期間中であれば何度でも視聴できた。

講師は全国保育園保健師看護師連絡会の藤代理事で、基礎編では、①感染症の基礎知識、②保育施設での感染症対策、③感染症発症時と登園時の対応、④衛生管理の四項目について、実践編では、①日々の保育での感染症対策、②保健管理、③保育施設における新型コロナウイルス感染症への対応とケア、④体調不良時の対応とケアの四項目について講義された。

令和三年度はワクチン接種が進む一方で、感染拡大と収束を繰り返す中で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されるなど、流行が終息する兆しが認められない状況が続いた。そこで、八月二日に事業委員会を開催し協議した結果、本年度はオンライン配信によって開催することに決定した。

新任職員研修会で絵本の楽しみ方の講義を毎年依頼してきた、(株)チャイルド社の出版・セミナー部は、研修番組のオンライン配信サービスを提供しており、内容を検討した結果、幹部研修会については「保育者のための感染症対策講座（基礎編）」と「同（実践編）」（各四十分）の二つのプログラムを十一月十七日（水）十三時三十分～十九日（金）十五時に配信することに決定した。

動画は指定されたURLにインターネットを通じてアクセスし、パスワードを入力することで、期間中であれば何度でも視聴できた。

講師は全国保育園保健師看護師連絡会の藤代理事で、基礎編では、①感染症の基礎知識、②保育施設での感染症対策、③感染症発症時と登園時の対応、④衛生管理の四項目について、実践編では、①日々の保育での感染症対策、②保健管理、③保育施設における新型コロナウイルス感染症への対応とケア、④体調不良時の対応とケアの四項目について講義された。

令和二年度の研修会は新型コロナウイルス感染症が流行したため、十二月の幹部研修会と三月の新任職員研修会のいずれも中止となった。会員施設が企画運営する保護者研修会も応募がなかった。

令和三年度はワクチン接種が進む一方で、感染拡大と収束を繰り返す中で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されるなど、流行が終息する兆しが認められない状況が続いた。そこで、八月二日に事業委員会を開催し協議した結果、本年度はオンライン配信によって開催することに決定した。

新任職員研修会で絵本の楽しみ方の講義を毎年依頼してきた、(株)チャイルド社の出版・セミナー部は、研修番組のオンライン配信サービスを提供しており、内容を検討した結果、幹部研修会については「保育者のための感染症対策講座（基礎編）」と「同（実践編）」（各四十分）の二つのプログラムを十一月十七日（水）十三時三十分～十九日（金）十五時に配信することに決定した。

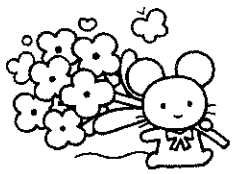
動画は指定されたURLにインターネットを通じてアクセスし、パスワードを入力することで、期間中であれば何度でも視聴できた。

でも視聴できる研修会と
したため、参加しやす
かったのではないかと思
う。受講後のアンケート
では、新型コロナや感染
性胃腸炎など、日々感染
対策を行っているが、研
修を受けることで、日々
の感染対策の妥当性を再
確認できたという感想が
多く寄せられた。一方
で、三日間とは言え、実
質的には二日間の視聴時
間であり、一週間程度の
視聴時間があればより良
かったという意見も寄せ
られた。

を保育する施設には、専
門職としての看護師や保
健師の配置が不可欠であ
ると考える。保育士との
兼務として配置を認める
のではなく、単独で配置
できるように制度の見直
しをお願いしたい。

なお、本年度の新任
職員研修会は三月九日
(水) 十三時三十分から
十一日(金) 十五時まで
の三日間、「保育者とし
ての基本マナー」と「園
の一員として働くという
こと」の二つのプログラ
ムを配信するので是非、
利用して頂きたい。

岡山県民間保育所協議会
会長 小松原 望



新任園長紹介



〈倉敷市〉
めばえ第二小規模保育園
山口満利子先生

計報 安藤悦子氏



社会福祉法人愛育福祉会
めばえ第二小規模保育園長
令和三年十月十九日
ご逝去(享年七十歳)

先生は昭和五十七年十月から令和二年三月までの間、めばえ保育園の副園長として約二十年間、特に昭和六十二年十月から平成十七年三月までの約十八年間は園長として同園の発展に尽くされ、園児や保護者に優しく笑顔で接し、慕われる存在でした。

令和二年四月、めばえ第二小規模保育園長として同園の立上げに尽力し、待機児童の解消に貢献されました。
先生の生前のご功績をたたえ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

表紙のことば
「風情ある港町
下津井地区の
『干しダコ』」

児島半島の南端にある下津井地区では冬になるとタコ漁が最盛期となります。下津井沖で水揚げされるタコが「下津井ダコ」として全国的に知られています。「二年のうち、おいしくない時期は三日しかない」と言われるほど、年中おいしくいただけませんが、秋から冬のタコは「寒ダコ」と呼ばれ、一年の中でも最も身が締まり、旨味が凝縮されています。また漁港では、足を広げて吊るされた大きなマダコが瀬戸大橋を背に潮風にゆらゆらと揺れている『干しダコ』の姿が見られます。

『干しダコ』を探しながら、漁港周辺の散策を楽しんでみるのもいいですよ。

関川 洋子

編集後記

現役東大生のアンケートで、母親に関する大きな共通点があったそうです。それは、
①「勉強しなさい」と言われたことがない
②いつもニコニコしていた、
の二つだそうです。

高額な家庭教師や学習塾、勉強を教える頭脳ではなく、必要なものは、ただひたすら忍耐力のみです。(笑)
人の幸せは学力だけでは
ないですが、母親がいつもニコニコしていることは、子どもの成長にとっては、間違いなくプラスの影響を与えていると思います。

私自身「笑う門には福来る」はただの諺ではなく、この世の真理の一つだと信じています。

二〇二二年はみんなが心からニコニコできる年になるといいですね。

最後に御多忙の中、原稿をお寄せ頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

水本 晃司

この機関誌は、共同募金より一部助成を受けています。

